

発行所 日本行動療法学会
〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1
TEL&FAX 0985-58-7458
宮崎大学教育文化学部 佐藤正二研究室内
振替口座 01730-1-96416 加入者名日本行動療法学会
発行責任者 高山 巖
編集責任者 杉山雅彦 瀬戸正弘

[主要目次]

1. 2001-2003年度新役員候補者一覧と理事長あいさつ
2. 日本行動療法学会第27回大会(沖縄)について
3. 私の職場(4)

1. 2001-2003年度新役員候補者一覧と理事長あいさつ

理事長 高山 巖

このたび、本学会の理事長をお引き受けすることになりました。とはいうものの正直なところ歴代の理事長がなされてきたような学会への貢献は、私の力量では荷が重過ぎるという思いが強いのも事実です。ただ幸いなことに日本行動療法学会の会員には、各分野で活躍されている非常に優れた資質を持っておられる先生方が数多くおられます。そこで私としましては、「自分が学会のリーダーとして、会員の皆さん方を引っ張っていくのだ」とか、あるいは「学会の舵取りを自分がするのだ」というような気負いはもたずに、会員の先生方に相談しながら学会運営にあたりたいと思っています。したがって先生方の多大なご支援をお願いしたいと思います。そこで学会のことを思っただけの先生方の建設的な批判や叱責はどんどんいただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

ところで学会運営にあたって、どのようなことに中心を置くかということですが、私としては、上にも述べましたように特別な抱負をもって臨むと言うより、本学会の基本的な達成課題である会員相互間の研鑽と行動療法の普及ということに重きをおきた

と思っています。この2つの目的を果たすための運営のあり方には、もちろん、いろいろなものがあるかと思いますが、最もその中核的なものは、やはり学会誌の充実であろうかと思っています。学会誌こそは投稿する者にとっても、またそれを読む者にとっても、まさに会員の研鑽の最も重要な基盤をなすものであるかと思っています。しかも学会誌の魅力ある充実こそは、行動療法の普及にとっても欠かせない重要なことだと思います。もちろん歴代の理事長および編集委員の方々もこのことには努力されてきたことですが、本学会の現状に鑑みて引き続きこのことに重点をおきたいと思っています。そのために具体的にいくつか方策も考えたいと思いますが、なんと言ってもそれには会員の皆様の学会誌への投稿をはじめ、編集等にかかわる先生方の地道な努力とご協力をお願いしたいと思います。

次に本学会が抱える目前の重要な課題としては、もう一つ、アジアではじめて開かれることになる世界行動療法認知療法会議に向けての対応があらうかと思っています。これに関しては、すでに数年前から、そのために中心的な役割をさせていただいている会員の先生方が、ご苦勞をされながら着々と準備をすすめておられますので、この先生方を中心に今後ともよろしくお願いしますと思っています。もちろんこのことでも会員の先生方の多大なご協力を切にお願いしたいところです。

それから、もう一つ、やはり本学会として、あるいは本学会員の先生方とを考えていかなければならないものに、わが国における臨床心理士の専門資格制度の問題があるかと思えます。つまり今日、精神保健の分野にかかわるところで、さまざまな国家資格の専門資格制度が確立しつつあります。そのようななかにあつて臨床心理士の資格制度については、さまざまな理由からこうした公的な資格制度にまで至っていない状況があります。このことが、長期的に私たち臨床心理の分野に携わる者にとって不利になることのないよう本学会としても何らかの対応策なり、働きかけを考えるべきではないかと思っています。この問題も拙速は避けたいとは思いますが、慎重な話し合いやご相談をしたい問題と思っています。もちろん、上に述べたものだけが重要なことというのではなく、他にも学会として対応すべき重要な課題は種々あろうかと思えますが、不器用な私には、とてもあれこれとこなせないと思しますので、上記のようなところに視点を置きながら出来る範囲で務めを果たしたいと考えています。

最後に、会員の皆様によるしくご支援いただきますよう、再度お願いを申しあげ挨拶に代えさせていただきますと思います。

日本行動療法学会新役員候補者一覧

理事長	高山 巖				
常任理事	小林 重雄	久保木富房	丹羽 真一		
	佐藤 正二	芝野松次郎	杉山 雅彦		
理事	上里 一郎	石津 宏	岩本 隆茂		
	神村 栄一	熊野 宏昭	久野 能弘		
	根建 金男	坂野 雄二	生和 秀敏		
	瀬戸 正弘	園田 順一	高石 昇		
	山上 敏子				
監事	大野 裕史	嶋田 洋徳			

2. 日本行動療法学会第27回大会（沖縄）について

第27回大会準備委員長 石津 宏
(琉球大学医学部精神衛生学教室)

日本行動療法学会第27回大会は、前回お知らせしたように平成13年(2001)10月10日(水)~11日(木)に、沖縄で開催されます。大会に引続いて11日(木)夕方~12日(金)には第25回行動療法研修会もあります。多勢の皆様のお越しをお待ちします。

会場は、沖縄郵便貯金会館(メルパルク沖縄)で、那覇市街と古都首里の境目に位置し国際通りの繁華街にも首里城にも近い交通の便の良いところです。ホテルもたくさん近くにあります。

学会当日のタイムスケジュールは、受付8時30分から、研究発表は9時開始です。詳しくは2号通信を参照して下さい。

21世紀最初の本学会の基本テーマは、「新世紀における行動療法への期待」で、行動療法に何が期待され、どのような展開ができるかについて考えます。

このテーマに沿って、《新世紀鼎談》理事長は語る「日本行動療法学会の越し方、行く末」で初代、二代、三代理事長の内山喜久雄、上里一郎、高山巖の御三方に登壇していただくのをはじめ、特別講演には「沖縄の長寿者のライフスタイル」について、百歳以上の超高齢者が日本一多い沖縄ならではの演題で、琉球大学生涯健康基礎学講座の平良一彦教授にお話いただきます。また《新世紀シンポジウム》と名打って、「治療法としての行動療法諸技法の新しい展開」(シンポジウムⅠ、座長：久保木富房、東京大学心療内科教授、坂野雄二、早稲田大学人間科学部教授)、「予防・ヘルスプロモーションへの行動療法の展開」(シンポジウムⅡ、座長：久保

千春、九州大学心療内科教授、新里里春、琉球大学教育学部教授)の2つを行います。それぞれの指定発表者には、丹羽真一教授と菊池長徳名誉教授の御二方を予定しています。わが国の行動療法の新しい可能性が大いに期待されます。会長講演は、「バイアグラ時代の性障害の行動療法」です。

一般演題は公募に応じてたくさんの申込みがあり、97題の研究発表の演題について、これから採否と振り分けを行います。発達障害の特別コーナーをあつらえる予定です。ケース・スタディは、手こずった複雑な難しい症例について、臨床経過をたどります。「摂食障害」と「パニック障害」に対する行動療法症例を、鹿児島大学心身医療科と東京大学心療内科から提示していただきます。

前回少し触れた近隣アジア・太平洋諸国との交流については、ホームページを通して台湾などの行動療法に関心のある方へお知らせしています。

学会への参加は、会員はもとより、行動療法に興味と関心のある方はどなたでも参加できますので、ぜひ多くの方を誘って、南の空と海を越えて沖縄へおいで下さい。そして一人でも多くの方に入会していただければ、学会の発展にも寄与できると思います。

次に、第25回行動療法研修会についてですが、大会第2日の終了後、10月11日(木)夕方6時から研修会A「心身症の行動療法」を行います。東京大学心療内科から早稲田大学人間科学部へ移られた野村忍教授が担当されます。翌日10月12日(金)には、研修会Bを10時から夕方5時30分まで行います。「精神分裂病の認知行動療法」を横浜国立大学教育人間科学部の石垣琢磨助教授が、「学校の“荒れ”に対する行動療法」を広島国際大学人間環境学部の杉山雅彦教授が、そして「EMDRの可能性」を琉球大学教育学部の市井雅哉助教授が、それぞれ担当され、実践に役立つ研修になると期待されます。

なお、本学会や研修会への参加により、日本心身

医学会認定医や日本心理臨床学会臨床心理士など、関連諸学会の認定更新の単位、ポイントが得られます。ふるってご参加下さい。

そして学会終了後は、沖縄のエメラルド・グリーン
の海とコバルト・ブルーの空を満喫して、沖縄の文化に触れられるよう希望致します。日本最南端の地で初めて開かれる本学会への参加をお待ちします。☆会員以外の方で、今回参加を希望する方は、次のホームページをご覧ください。

<http://www.cc.u-ryukyu.ac.jp/~b729794>

又は

<http://www.ntaoka.co.jp/convention/k-ryouhoO.html>

☆なお、参加は学会当日でも受付いたします。

3. 私の職場(4)

目白大学人間社会学部心理カウンセリング学科
仲田 洋子

目白大学は、東京都新宿区(短期大学部、人間社会学部)と埼玉県岩槻市(人文学部)の二箇所にあります。私が所属する人間社会学部心理カウンセリング学科は、新宿区ですが、目白台地の西方に位置しています。新宿区というと、雑踏、繁華街のイメージがありますが、キャンパスの周囲は簡素な住宅街です。都心にしては珍しく緑が多く、西武新宿線中井駅から、風情のある坂を登りつめて(大変体力がつかます・・・)、キャンパスに入るとほっとします。キャンパス内にはちょっとした史跡もあります。

人間社会学部(心理カウンセリング学科、メディア表現学科、社会情報学科)は昨年の四月に新設されました。心理カウンセリングセンター(以下センター)も同時に併設されました。センターは、地域サービス(一般の方への相談)、学生および学園関係者への相談、附属学校の生徒および先生への相談

やコンサルテーション等を行っています。また、2年生から始まる学生の実習の場でもあります。

昨年の夏には公開講座を開催しました。主に教育関連領域に携わっている方を対象とする講座でした。講義の合間に「教育相談」の時間枠が設けられ、講座の参加者から実際に抱えているケースの相談を受けました（私も担当しました）。予想以上に相談の申し込みが多く、なかなかの盛況でした。

センターのスタッフは12名（うち3名は平成13年度より）おり、その領域は、発達相談、精神科領域の相談、教育相談、学生相談、附属学校の生徒の相談、コンサルテーション、異文化カウンセリングと、多岐にわたります。当センターの特徴としては、精神科医が常勤としていること、またサイコロドラマ室があることが挙げられるかもしれません。

私は、心理カウンセリング学科の助手ですが、兼任としてセンターの業務もお手伝いしています。仕事の内容は、事務的なこともあります。大抵の時間は相談に追われております（新設の割には、繁盛していて、嬉しい悲鳴(?)をあげています...)。対象は子どもから大人までで、その相談内容で求め

られるニーズも多種多様です。役割上、インターカーとなることも多いのですが、今、継続中の相談でも一般の方の相談、学生相談、附属学校の生徒の相談、その生徒さんの教師へのコンサルテーション等と多様な相談を担当しています。

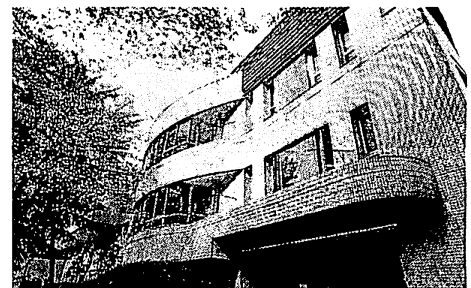
現職に就く前には、クリニックや教育センターで臨床をしていた経験もあったのですが、このセンターで初めて出会う種類の相談も多く、毎日毎日臨床トレーニングを受けている気分です。用いるアプローチも、行動療法を始め、ケースのニーズに合わせてアプローチを選んでいきます。そのため、アプローチの方法も、広がりつつあります。まだまだ駆け出しの臨床家としては、大変良い経験をさせていただいているように思います。

まだ、日の浅いセンターですので、スタッフは毎日のように、知恵を絞ってセンターをより良くするようにしています。これを読んでくださった方で、お近くにいらした時には、ぜひお寄りください。ご意見、ご感想等を聴かせていただければ、幸いです。

スタッフ一同、楽しみにお待ちしております。



目白大学キャンパス



心理カウンセリングセンター (7号館)



面接風景 (模擬面接)